



バスケットシューズをはいて
長めに刈った髪を風になびかせながら
洗濯物の下や歩道を
ひらひら走りまわっていた
少年時代のぼく
ちがう土地に移ってから
友達との別れを淋しがるより恋をするほうが
ましだとわかって
倍も年上の女をだまし
例の写真のような真似もやってのけた
学校にいるときのぼくはジキルで
納屋のかげでは
まるでハイドのぼく
放課後には
よく汽車を見にいったっけ
あの汽車の音を
ぼくは今でも忘れない
線路に乗せておいて
つづいた銅貨
旅人たちが捨てて行った
遠い国のマッチ箱
……
いろんなものを
引き出しにいっぱい持っていたなあ
教会のえらい人を
よく知っていたから
安酒場の女たちも
ぼくの名前を覚えるまでは
えんりよがちにしか誘わなかった
鉄道の男たちはいつも
ぼくが手をあげて合図するのを見て
汽笛を鳴らしたっけ
目の前を通りすぎる汽車に手を振る
あのすばらしさと比べれば
野球なんて
まるで女の子の遊びだ